

情報通信審議会 情報通信技術分科会

I Pネットワーク設備委員会 ワイヤレス固定電話検討作業班（第1回）

議事要旨

1 日時

令和2年6月12日（金）13時00分～14時15分

2 場所

Web開催

3 出席者（敬称略）

（1）作業班構成員

内田 真人（主任）、井口 貴志、恵木 則次、小畑 和則、折原 裕哉、川西 直毅、高橋 玲、高林 孝行、武居 弘純、田中 絵麻、中村 信之、山内 由紀夫

（2）総務省

中村 裕治（電気通信技術システム課長）、廣瀬 照隆（番号企画室長）、井手 信二（電気通信技術システム課認証分析官）、恩賀 一（安全・信頼性対策室長）、田畑 伸哉（電気通信技術システム課課長補佐）、田中 隆浩（事業政策課課長補佐）

4 議事

（1）開会

- ・内田主任より、6月4日に開催されたI Pネットワーク設備委員会において、本作業班の設置を承認され、ワイヤレス固定電話用設備の技術的条件に関する検討を始める旨、及びWeb会議による開催の旨説明があった。
- ・事務局（田畑課長補佐）より、参考資料ワ作1－2に基づき、本作業班の運営方針について説明があった。

（2）議事

（2－1）技術検討作業班における検討について

- ・事務局（田畑課長補佐）より、資料ワ作1－1に基づき、技術検討作業班における検討について説明があった。

- ・事務局（田中課長補佐）より、資料ワ作1－2に基づき、電気通信事業法及び日本電信電話株式会社等に関する法律の一部を改正する法律について説明があった。
- ・説明終了後、意見交換を行った。主な意見や質疑は以下のとおり。

○作業班の中での主な目的は、資料の5ページ目の品質基準に関わる場所だと思っている。ワイヤレスに変えるということで、いろいろと波及していくと思われるが、どこまで議論の対象にするのか。

→無線区間が含まれるため、その上で安定品質をどのように規定するのか、本作業班にてご議論いただければと思う。

○資料ワ作1－1に記載されている携帯電話網としては、現在の4Gが対象になると思われるが、将来の5Gと切り分けて考えないといけないのではないか。

→制度概要にもあるとおり、既存の携帯電話網（4G/LTE）を使用する事を前提に本作業班でご議論いただきたい。将来的に技術が進展した場合、その時点で基準が適切かは、将来的に検証していくことが必要と考えている。

## （2－2）ワイヤレス固定電話用設備の技術的条件に関する検討

- ・武居構成員より、資料ワ作1－3に基づき、ワイヤレス固定電話の提案方式について説明があった。
- ・説明終了後、意見交換を行った。主な意見や質疑は以下のとおり。

○ワイヤレス固定電話用設備に係る技術的条件について、資料ワ作1－3では、総合品質、ネットワーク品質、FAXの内容、安定品質の内容が記載されているが、これ以外については従来の技術基準に基本的に従っていくという考えであると理解してよいか。

→資料に記載されているもの以外については、現行の基準に準拠する形で検討している。

○ワイヤレス固定電話の音声評価としてPOLQAを用いて評価したいというNTTからの提案について、その妥当性等ご意見があればいただきたい。

→音声評価として、基本的にネットワーク品質というのは、パケット損失や、符号化処理に対して音声に与える影響を加味して、音質として十分というところを使っている。P

○LQAの場合、一般的に音声信号を比較するので、ネットワーク品質が音声に与える影響というよりは、ある程度正確に音質への影響というのを捉えられているものだと思う。使用方法については標準化されており、それに準拠した形で利用するのがふさわしいだろう。

○もともと通話品質はお客様目線で考えるべきで、エンド・エンドで評価するというのが正しいアプローチだと思う。その点で、最初の基準はR値というエンド・エンドでの品質を担保してきたが、事業者のサービス提供範囲、責任分界点的な話もあり、自分たちが責任を持てる部分での品質を担保するという考え方と、実際に測定するときの負担等を鑑みて、ネットワーク品質基準という考え方に進化していったと考えている。今回ご提案いただいているのは、エンド・エンドの遅延とPOLQA値なので、純粹に通話品質評価という観点では、非常にフルスペックの評価だと考えている。ただ、何故ネットワーク品質にいったのかを考えると、測定の効率性、容易性等も考えなければいけないので、その値を決めるときには、TTCのように評価法の標準をつくられるところで、より現実的な測定ができる方法をきちんと定めていくことも、実際に定めたことが実行に移されるかどうかという点では大事なので、その点もご検討いただきたい。

→NTTとしては、今回の提案にあたり、これまでの検討経緯を踏まえ、純粹に音声品質を遅延と音質で評価することが妥当ではないかと考えている。運用はまだ先の話ではあるが、新たな測定方法等も含め、TTC殿にもご支援いただきながらご検討いただきたい。

○安定品質の考え方について、どのように保証していくことを考えているのか、改めてご説明いただきたい。

→安定的なサービス提供というところで、現行の省令に安定品質が規定されている。そういったものに準拠した形でサービスを提供することは重要な観点。具体的には、モバイル網において条件を満たすものを調達することによって、エンド・エンドで担保したいと考えている。

○通常の品質に関して、常時計測することは考えているか。例えば平成27年9月には、ベストエフォート回線を使ったOAB～J番号の固定電話を議論したが、このときは、常に

ベストエフォート網の品質を計測するという話があった。これと比較したときに今回のワイヤレス固定電話というものの安定品質をどう考えたら良いのか、もう少しご説明いただきたい。

→まずは具体的になった安定品質の要件を満たすというのが第一義。今回、無線を用いるということで、心配が先行するかもしれないが、実際にお客様にサービスを提供するときに、電波環境を確認して品質を満たすところでしかサービスをしないということと、お客様の環境が悪化した場合に検知するような仕組みなど今後考えていきたい。

○FAXについてはITU標準にのっとりTTCのガイドラインがあるが、これと比較して、ガイドラインにのっとり問題ないという評価が行われたかどうかを確認させていただきたい。

→TTCの標準への準拠について、検討中である。

○FAXについて、従来の固定系と比較して、いくつか不便になる点が見受けられるが、お客様から後で聞いていないと言われることがあるかもしれない。どの程度FAXの通信品質に関して許容されるのか、追加の説明があればお願いしたい。

→お客様への具体的な周知の仕方については検討中だが、実際にFAXを使われているかどうかという確認も含めて、こういった差分が出るということをご理解いただいた上でお使いいただくことを考えている。

○従来のG4FAXがあるが、これが使えるのかどうか。G4FAXが使えない場合、切断理由によってG3で再度送付できるが、こういった機能も蓄積型でカバーできるものなのか。

→G4FAXについては対応できないが、主に事務用と思われるので、該当のお客様がいれば丁寧に対応していきたい。基本的には、ビジネスユース用のFAXは、今回のエリアにはあまりないと思われるが、仮にある場合には個別に協議させていただくことになると考えている。

○今回の議論は、平時における通信品質を議論するという事で良いか。

→平時におけるワイヤレス固定電話の技術的条件をご議論いただくのが本作業班の目的

と考えている。

(2-3) その他

- ・事務局（田畑課長補佐）より、今後の予定について説明があった。

(3) 閉会

- ・内田主任より、本日の会合を終了する旨説明があった。

以上